

あと間もなくで、原発ゼロの日を迎えることができそうです。子どもへのプレゼントをすることが出来ます。すばらしいと思います。止ったんじゃない、止めたんだということを確認しましょう。

そして、もう一つ私は確かめたいです。

どんなことにも、どんな絶望的なことが起きても、私たちは子どもを守る、未来を守る、未来を作っていく。そうした大人たちが、この日、この時に集まってくることを信じています。

これも、何よりの子どもたちへの、生き生きとした勢を見せる、プレゼントではないでしょうか。

様々な違いがあります。時にそうした違い、腹をたて、怒りを持ち、情けなくもなり、がっかりもします。しかしそうしたとき、一体そうした事態を誰が責めたいと頭に据えて、今日のこのつながりを、ほぐし、ゆるゆるむくことな、原発いらない日に向かおうと、又続けて行きますように。

よろしくおねがいします。

ノーモア原発

ノーモア福島

国内のすべての原発の運転が止まった5月5日、東京港区芝公園『さよなら原発555集会』五五〇〇

井戸川克隆双葉町長言

4.25 参院憲法審

査云 大震災と統治機構についてにおいての発言抜粋

この度の原発事故の立地町の町長として、本日はお招きに預りましてありがとうございます。略(その事故におきまして私たちは、住む所を離れて全国41都道府県に町民はお世話になっております(略))。

3月11日を境にしまして日本という国は限度を超えた混乱期に突入したと、私は思っております。事故は絶対に起こらないと強調していましたが、実際事とその期待を裏切ってしまうました。

今日までなかなか我々は何を信じていいかということが一番困っております。われほど信じているの出来ない毎日を送ることは今までありませんでした。そこで憲法13条に関して：老人は早く死ぬ場所を見つけてくれ、ここでは死にたくない…という要望が来るのに対し、答えを用意することができないことが非常に困っております。また子どもたちが学校から帰ってきて、何かあったか…と聞いても、何も無いよ、という作り笑顔に対して、なんと

もはやかわいそうだなと思ってみております。従って現在は、自分で自分のことができない、自己努力の中で幸福を追求することができないことに大変困っております。



ます。憲法25条におきましても、自分で自分の進路を選択することができない、このおぼつかさの中、困っております。

放射能を日本の国土に放出しましたけれども、我々被害者としての位置づけられておりますが、加害者としての位置づけはまだなされておられません。従って賠償請求にしても、何にしても、誰にわたすのか。本日にどうも、あきらめに近いような状態で、町民はおります。しなご町長どうも、このまま

でいいのかと言われておりますが、今政府あるいは議員の皆様方に対して、数々の要望をさせていただいておりますが、時々ちよつとおかしな言葉があるなあと、このことがあります。それは「支援をする」我々に対して支援をするという言葉について、私は納得がいかないであります。支援ではなくて責任を果たしていただきたいなあと、思っております。

略(航空機あるいは鉄道事故についても速やかに検査する機関があると思っておりますが、今回はありません。いずれできることを期待しております。略(放射線についても、ほとんど福島県土は放射線管理区域特になつてしまいました。多くの福島県民がこのような中で毎日生活をしております。特に子どもたちがかわいそうであります。略)

今度の震災事故で絶対に必要であったことは、最悪の事態を想定し、早く情報を周知するということ。まず、地震津波を予知していたこと、電源が喪失していたこと、原子炉に水がたまらなくなっていたこと、制御不能になっていたこと等が分かれれば、次の状態がどうなるか判断できるものがたくさん

おります。しかし情報は後出しにされてまいりました。すなわち発生から情報隠しをして、私たちがはわからないうちがいはじめあります。総理は双葉郡民を国民だと思っております。これは情報は隠蔽され被害が拡大したことを聞いたのであります。総理は大事な国民ですと答えましたが、私は棄民にされたと思っております。厳しい生活を続けている町民に今痛ましいことが発生しております。これ以上起きないことを毎日願っております。

山谷えり子委員：井戸川克隆・双葉町長の雑誌のインタビュー記事を読み上げる。

「ただ一つ残念なのは、マップを皆さんに見て頂きましたけれども、被曝をしてしまったということ。私も1号炉の爆発時には、まだ双葉町にありましたので、爆破物が空から降ってくる中にありました。その時に、被曝の検査をお願いしたいというところで、何度かお願いしましたが、いまだに、実現をしております。日本にどのくらいあるのか、世界にどのくらいあるのか、という話もさせて頂きましたけれども、福島県民は今、非常に被曝検査がなおざりにされております。これは、なっているのではなくて、私は、はっきり断言させていただきますが、されております。誠に、やる気があるのか無いのか分かりませんが、けれども、十分その気が感じられますが、是非、このことについては、当時からお願いしておりますので、今後お力添えを頂きたいと思っております。私は野田首相に『双葉郡民は国民だと思っております

か?』と聞いたけれど、国はアメリカの SPEEDI のデータを先に知らせず、国民には SPEEDI のデータを提供しなかった。今もって、双葉町は、SPEEDI のデータは来ていません。あの情報が入っていたら、仙台方面に逃げていますよ。あるいは、ベントの連絡もなかった。それから国、東電は、止める、冷やす、閉じ込めると言い張って、絶対安全だと言ってきた結果がこれで、我々は住む所も追われてしまった。放射能のために学校も病院も職場も全て奪われ崩壊しているのです。私は脱毛いたしますし、毎日鼻血が出ています。この前、東京のある病院に被曝しているので血液検査をしてもらえますかとお願したら、いや、調べられないと断られましたよ。我々は、被曝までさせられて、その対策もないし、明確な検査もない。」

信頼関係があつて、今まで原子力発電所を許してきたということがあります。事故を起こす約束の下に誘致した事はないと私の親たちが、誘致するに当たっては、事故を前提に誘致したことはありえないと考えております。従って、何事も最終的には人と人との信頼関係が一番大切だと私は常日頃考えております。『直ちに健康に影響がない』これは分かりません。そう言われても分からないわけでございますので、そういうことよりも恐れがあるということ、安心をさせるよりもまず問題を起ささない対策を対応する事が、やはり、国家あるいは、国民を司る権限を持つ方の責務だと私は考えております。

後から色々、あの時は、何かのために発表しましたというコメントも聞きますが、そのたび、私は、身震いするくらい残念でなりません。くやしい思いをしております。(略)

これはちょっと余談になりますが、国の役人が来られた時に、10ミリシーベルト、20ミリシーベルトの安全について、議論しました。

『大丈夫ですか?』と聞いたら、『発症事例がありません』と言われました。長崎広島と同じ。そのような事例がありません。『よく探したんですか?当時そのような状況の下に調べたんですか?』と聞きました。その後、『放射能放射線の種類、今回の事故と長崎広島と全く同じですか?』と聞いたら、答えられませんでした。従って、発症しないという言葉は我々にとってなら安心させる言葉ではありません。正しくても正しくなくとも、我々は自己判断できます。

情報を出すべきだと思います。情報を出さなかったことに、私も浪江町長さんも同じ思いをいたしますが、くやしい思いをしております。町民を不要に被曝させてしまったんです。それから、被曝検査については、どこかで、我が町民が申し入れば、福島医大に確認したそうです。そうしたらやらないでくださいと言われたそうです。

これが実態です。このようなことで、我々は、十三条、あるいは二十五条に満足していない状態に置かれていることをご理解頂きたいと思っております。

(文字起こし後半)「ニュース365」より

復興に向けて首長に聞く

伊達勝身【右泉町長】2・29 朝日コ

「現地からは納得できないところが多い」



被災した小本地
区の移転先は、駅
周辺を候補に用地
交渉をしている。
近くに三陸沿岸道

のインターがあり、交通の要衝だ。昨年11月、用地買収に向けて価格設定をしようとしたが、国から待たされた。沿岸道の用地買収に影響するという。県もバラバラに進めると混乱するという。そんな調整で2カ月

遅れた。被災者には申し訳ない。

現場からは納得できないことが多々ある。がれき処理もそうだ。あと2年で片付けるという政府の公約が危ぶまれているというが、無理して早く片付けなくてはいけないんだろうか。山において10年、20年かけて片付けた方が地元で金が落ち、雇用も発生する。

もともと使っていない土地がいっぱいあり、処理されなくても困らないのに、税金を青天井に使って全国に運び出す必要がどこにあるのか。

4月1日付で役場に復興課を新設する。被災者支援から復興まちづくり

りの窓口にする。小本支所を含め正職員だけで8人の態勢だ。6月には三陸鉄道小本駅の観光センターを取り壊し、避難ビルや集会所、支所を置く複合ビルにする工事を発注する。

2010年7月の事故以来不通になったJR右泉線は、観光路線化して復旧させることを真剣に考えたい。人口が減る地元だけで利用運動をしても無理がある。略(どう)残すか、知恵を絞らなければいけない時がきた。

東日本大震災：播磨町にがれき「ノ」

市民団体が要望／5・9 毎日

東日本大震災のがれき広域処理の危険性を訴える市民団体「子どもたちの未来と環境を考える会ひょうご東はりま支部(宮崎やゆみ代表)」が8日、播磨町にがれきを受け入れないよう要望した。文書で、がれきは、アスベストやPCBなど有害物質のほか放射性物質を含む、として「ノ」を求めた。町は、近畿の廃棄物埋め立て計画「大阪湾フェニックス」の基地の一つ。町は11日期限の県への文書回答を「検討中」としたといい、毎日新聞の取材に「町民の安全が第一。お金や設備などの条件提示で判断はしません」とした。